

## 平成22年度 ふるさと活性化事業・地域活性化事業蔵文化講演会要旨

日時及び会場；H22.5.20（木）大和川酒造 北方風土館 昭和蔵

1 開会 司会進行 江花圭司 (18:30)

2 上野会長挨拶

3 講演者紹介 (アレックス・カー氏&清水慎一氏)

4 講演要旨

### 清水慎一氏のリードで、進行。

アレックスは、自分のPCで映像を使いながら話しを進めた。

ヨーロッパのまちの風景と、日本のまちの風景を、一コマ一コマ対比させて見せる。

古い建物の外観は残し、内部は現代生活に適応できるような工夫。

日本のまちは、住宅メーカーのやりたい放題。古いものを壊してしまう。

京都の人は、京都がきれいか。

日本人の暮らしをどう生かす、活かすか。

庵の実践例がある。古民家の再生。

### 日本の美意識。

ヨーロッパの田舎町がなぜ残ったのか。

建築様式、風情を残したいと信じている人が町全体に居る。

京都駅などは、京都の古いものを否定したのだ。

ピンク、イエローなど、京都でないのを、なぜ取り入れるのか。

美的感覚以前に、古いまちにプライドを持つことだ。

その感覚自体は変わっていない。

古いものは、恥ずかしいというレベルだと思う。

それじゃ、今出来たのは綺麗か言われても、そうでもないじゃないか。

**喜多方の蔵はどうすべきか。**

プロデュースが必要だ。

観光コースの中にある蔵の見せ方については、従前の十分なプレゼンテーションをすべき。

一種の公共事業として、老朽化した蔵の手当てを行う。

国のお金を利用する手段はある。国側の対応にも変化が見える。

蔵座敷に泊まるのは面白い。活用とその見せ方に工夫をする。

**気に入った地域は、全国で3つ上げるとすれば、次のとおり。**

①四国の徳島県三好市祖谷（いや）

②やはり京都、世界に類のないまち。何とかしたいという気持ち。

③特定地域をあげるのは難しい。候補地としては、牡鹿、長崎そして喜多方も候補に入るかもしれない。

**タイ文化について**

タイの伝統芸術、タイの礼儀作法、踊り、花飾りなどの分野で難しく、階級的な考え独特の決まりがあって、理解できないところがある。それが重要。

**観光しない観光。ここがポイントです。**

5 まとめ 喜多方にまた来たい。蔵の建物には正直感動した。

6 閉会

(19:50)

(引き続き、天空回廊にて懇親会を開催した。聴講者 100 名、懇親会参加者 40 名)

作成 五十嵐哲矢